横浜市立 横浜市立上山小学校　　令和5年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「ここに学び　ここで遊ぶ　ここがふるさと　上山の子」
めざす子ども像「やってみよう　つなげよう「すき」をふやそう　自分・友だち・上山小」～低学年：楽しむ　中学年：広げる　高学年：高める～
〇自ら課題を発見し、自分の考えをもって学び合い、課題解決を図ることで楽しく学べるようにします。（知）
〇自分のよさを知り自信をもつとともに、互いの考え方や生き方を認め合い、支え合うことができるようにします。（徳）
〇自他の生命を尊重し、心と体の健康を大切にして、安全に生活する力を高めることができるようにします。（体）
〇自然の営みや優れた文化・様々な生き方に触れ、感性が豊かになるようにします。（公）
〇地域やより広い世界とかかわり合いながら、共に生きることのすばらしさを実感できるようにします。（開）

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
＜主体的に考えようとする態度＞ ＜共生的な考え方・判断＞ ＜課題発見力・共生的な課題解決力＞	＜伝え合うことで自分の考えを深化させる力＞ ＜互いの考えへの気付き＞ ＜問題解決の過程を振り返る＞

中期取組目標

めざす子ども像の具現化を図るために「やってみよう　つなげよう「すき」をふやそう　自分・友だち・上山小」をテーマとして
・子どもが互いを尊重し、誰とでも共生できる能力の育成とともに、児童指導・児童理解の充実を図ります。
・子どもの主体的意識を育て、課題を発見し、解決していく学び方を全教科・教育課程で進めます。
・生活科や総合的な学習などを通して、地域の「ひと・もの・こと」意識した学習を実践し、地域の良さを知り、地域や社会に貢献できる子どもを育てる。
・主体的に自己を見つめ、よりよい生き方を求める子どもの育成のため、さまざまな教科や行事での経験や学びの中で得た多様な考え方や感じ方をもとにして、主体的、対話的に考えを深め、相手を理解し、自分の言葉で語ることができる姿を目指します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
確かな学力		【主体的・対話的で深い学びを通して、課題発見・課題解決能力を育成します】 ①「できる・わかる」授業を心がけ、学ぶ意欲の向上を目指します。②子どもたちが、「なぜだろう」「知りたいな」という課題発見の力の育成、また、その疑問を、自ら追究していこうとする課題解決の力の育成を目指します。
担当	研究部	

学力向上に関わる本校の状況

（1）「主体的」「わかる」「できる」の実態

学力の結果から、2年・6年は市平均をやや上回ったが、その他の学年は、市平均を下回っている。また、学習意識が高学年になるにつれて低くなることもわかる。今後、どうしても学習量や、難易度が上がる高学年において、わかる授業、主体性を大事にした授業づくりを今後も意識していく必要がある。

（2）「課題発見」「課題解決」の力の実態

昨年度の横浜市学習状況調査の結果から、「不思議だな。もっと知りたいな。と思うことがありますか。」という設問に対し、市平均を上回る結果になった。これは特に低学年の時期において、体験的な学習を多く取り入れ、自分ごとになるような活動を計画的に積み重ねた成果であると推察できる。また、「気になったことがあると、とことん調べたいと思いますか」という設問にも特に低学年では市平均を上回る結果となった。

（3）「学び合い」の力の実態

昨年度の横浜市学習状況調査の結果から、「人の話をじっくり聞くことで自分の考えがまとまることがありますか。」という設問に対し、どの学年でも市平均を上回る結果となった。自分の考えを表現すること、そして相手の考えを聞くことで、さらに自分の見方考え方の広がりが期待できる。このことから日常でのペアトークの実施や様々な学習の中での学び合いを今後も継続していきたい。

今年度の目標

主体的に自己を見つめ、よりよい生き方を求める子どもの育成

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	上半期では、「主体的」つまり、「自分ごと」として学習することで、意欲が向上し、学ぶ楽しさを実感させることにつなげていきたい。そのためには、どの教科でも子どもたちの身近な題材を取り上げたり、導入を工夫したりすることで、子どもたちが「不思議だな」「なぜだろう」と思う課題発見の力の向上を目指す。そのためには、体験的な活動を多く取り入れたり、ICTを活用したりすることも効果的である。ICT活用は、職員間での能力に差が出やすいため、職員研修や、学年研等で有効活用方法について情報の共有を図っていく。また、教科領域にとらわれずに、資質能力を伸ばしていくために、効果的な行事との関連や、教科別の単元配列も計画的に行っていく必要がある。一昨年までの校内重点研究では、国語科の研究で言語力の育成を追究してきた。その力は、どの教科においても学習の基盤といえる力である。日常的にペアトークの実践を行うことで、自分の知ったこと、考えたことを、自分の言葉で表現する力も同時に指導していきたい。
下半期	下半期では、上半期でつけた課題発見から課題解決のプロセスをさらに深め、PDCAサイクルで課題解決の力の育成に重点をおいていく。課題解決のプロセスにおいては、ふりかえりを大切にしていき、教科領域を越えて、つながりを意識して指導しきたい。上半期で積み重ねてきた自分の言葉で表現する力をベースに、他者との学び合いの中で、自分と同じ「共感」や、他者の意見の「発見」に触れ、自らの見方考え方の広がりと共に、自分を深く見つめ、よりよい生き方を求める姿の育成を目指していきたい。

。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野		具体的取組
豊かな心		【一人ひとりが居場所をもって生活できる学校つくります】①教科学習、豊かな体験活動、教育活動から生き方・考え方・とらえ方を見つめなおし自ら正しい判断ができる主体性をもった子どもを育てます。②たてわり活動や異学年交流、地域とのかかわり合いを通して、信頼関係を構築できる力を育みます。③なかよし委員会が中心となり、全校集会、全校遠足、たてわり活動を行います。
担当	児童安全部	

豊かな心に関わる本校の状況

（1）豊かな心に関わる児童生徒の実態

昨年度の横浜市学習状況調査の「自分にはよいところがありますか。」という設問に対し、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答が、どの学年も市平均を上回る結果になった。（上記は2年）昨年度の緑区道徳授業研究会では、1年生では「個性の伸長」を題材に、「自分の良さ」「友達のよさ」について考える姿が見られ、5年生では「思いやり」を題材に「相手の立場に立つ」ことについて学んだ。今年度も校内重点研究の取り組みとして、道徳科の授業研究を中心に、子どもたちの豊かな心の育成を目指していく。

（2）「認め合う」雰囲気づくり

子どもたちが、自信をもって自分の良さを言える姿を目指していく。そのためには、安心して自分を表現できる場所、失敗してもやってみようという雰囲気づくりを大切にしていきたい。他者と認め合う中で、子どもたち一人ひとりが自信につながり、自己肯定感や、自己効力感の高まりを期待したい。

（3）たてわり活動を通した豊かな人間づくりの取り組み

年間を通して、たてわり活動やペア活動を推進している。相手意識をもった活動をすることで、相手の立場になったり、考えたりする力の育成が期待できる。コロナ禍で相手の顔を見たり、向き合ったりする活動に制限があったため、今後さらに人とのつながり方、関係を構築する場面を計画的に作っていき、上の学年のいい手本を下の学年につないでいくことを目指していきたい。

今年度の目標

スマイルチャレンジ「『すき』をふやそう　自分・友達・上山」

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	「『すき』をふやそう　自分・友達・上山」というサブテーマを設定し、自尊感情や自己肯定感、自己効力感の向上を目指す。「やってみよう・つなげよう」を実践する中で、その成果が、自分や友達、学校のことを自然と大好きになっている子どもの姿となって表れるようにしたい。そのために、普段の学習や生活では、ただやってみるだけではなく、目標を明確にして粘り強く取り組む姿勢や、継続して高めていこうとする姿勢を賞賛し、価値づけたい。また、人、物、事のつながりを意識し、そこで得られる達成感や充実感をより大きなものにし、同時に、共感や配慮をもって接することが当たり前となり、学校や学級が安心できる居場所となるようにしていきたい。そして、いずれの取り組みにおいても振り返りを大切にし、共感的に見取り、寄り添うことで、さらなる意欲、自信へとつなげていけるようにしたい。 年間を通した生活目標の設定では、「あいさつ」をテーマに1年間行っていく。各クラスの目標を明確にして、年間の計画を作り、毎回振り返っていく。
下半期	上半期に具体化した目標のイメージを振り返り、目標の修正や目標達成に向かっていくためのロードマップの修正を行っていく。達成できていることを価値づけていく過程で、自己効力感、達成感の向上を図っていきたい。

健やかな体の育成プラン

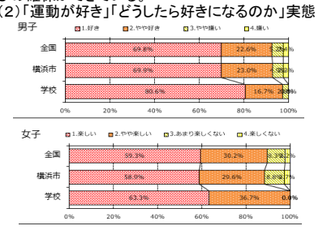
重点取組分野		具体的取組
健やかやな体		【健康的生活習慣を身につけ、健やかな心と体を育みます】①体力向上と健康な心の育成ために、長縄と自由外遊びを継続的に取り組みます。②年2回の学校保健委員会で生活習慣や健康に関するテーマについて取り上げ、健康的生活習慣の日常化に取り組みます。
担当	体育部	

健やかな体に関わる本校の状況

（1）取り組みと環境の実態

本校では、健やかな体の育成に向けて、外遊びの推進、年2回の学校保健委員会の実施、昨年度コロナ禍のため実施できなかった、長縄の推進を行ってきた。休み時間になると、大勢の子どもたちが校庭で遊ぶ姿が見られ、水曜日のロング昼休みの活用、児童数に対して大きな校庭があることもあり、伸びのびと遊びの確保ができている。

（2）「運動が好き」「どうしたら好きになるのか」実態



横浜市新体力テストの結果から、「運動をするのが好きですか」という質問に対し、男女共に市平均を上回る結果となった。外遊びの推進により、子供たちが体を動かす気持ちよさを感じていると推察できる。また、目指す子ども像の副題である「好きを増やそう」の視点から見ると、体育の授業が好きになった理由は「できるようになった・わかった」という理由が多く見られた。そのきっかけは、「先生や友達の真似をした」「コツを教えてもらったから」「自分に合う練習方法を選んで学習した」という理由が市平均を上回った。この結果から、現在も行っている「学び合い」「つながり」を意識し、一人ひとりに合った「わかる・できる指導の研究を進めていく必要がある。

今年度の目標

体力向上と健康な心の育成に向けて、長縄と自由遊びを推進する

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	上半期では、引き続き外遊びの推進、体育の授業での「できる」「わかる」授業から、体を動かすことへの気持ちよさ、学校保健委員会の実施などから健康への関心を高めていきたい。横浜市新体力テストの結果からもわかるように、本校の児童は「運動が好き」という結果が市の平均を高く上回っている。好きになったきかっけは、「教えてもらった」「真似をした」などの学び合いが大きく関係している。引き続き、学び合いの場を効果的に取り入れていく。また、児童一人ひとりに合った目標を設定し、練習方法を選んで学習していけるような工夫を行っていく。子どもたちが主体性をもって、目標に向かうためには何が必要で、どんな練習方法が必要なのか、その調整力も培いたい。そのためにはICTの活用、学習カードの利用も有効である。体育部や学年研で情報の共有を図っていく。
下半期	下半期では、引き続き、授業の中での指導、外遊びの推進、長縄の推進を行っていく。また、本校では後期に運動会を実施する。運動会では、低・中・高に分かれて演技、競技を行うことから、上の学年が下の学年に教える、クラス内で教え合うなどの学び合いの姿が期待できる。長縄に関しては、ここ数年コロナ禍で実施していなかったが、今年度からは例年の実施を予定している。寒い季節にも、進んで体を動かすこと、自分の健康に興味をもつことを計画的に行っていく。